

## 挨拶

みなさん、法科大学院へのご入学おめでとうございます。

例年ですと、直接お会いして挨拶をするのですが、昨年度末からの新型コロナウイルスの世界的な蔓延のため、感染抑止という観点から、今年度は、このような形での挨拶となってしまいました。残念ですが、私が担当する授業科目は刑法に関するもので、みなさんとは、これから講義等で何度も顔を合わせる機会があると思いますので、直接の挨拶はそのときにさせていただきたいと思います。

さて、平成から令和へと元号が変わり2年目を迎えた今日、世界を取り巻く状況・情勢は大きなうねりの中にあるとあってよいでしょう。わが国の法曹界・法曹養成制度も例外ではありません。今年度から法学部における法曹コースが本格的に始動する予定ですし、ロースクール出身の法曹が司法研修所や法科大学院の教育の中核を担っていく時代も、そう遠くはないでしょう。このような動きがよい方向に作用するように、法科大学院教育に携わるものとして、努めていきたいと思っています。

一時期よく言われていた、弁護士の就職難は落ち着いてきたようにも思われますが、法曹養成制度を取り巻く全般的な状況が劇的に好転したとは言えないことも事実であり、全国的に見ますと、法科大学院への進学希望者数・入学者数は低空飛行の状態が継続しており、また、司法試験の受験者数の伸び悩みも、まだしばらくは続くものと思われます。このような状況の中で、法曹の質をどのように確保していくかが課題となり、それに関して様々な意見が交わされているのは、ご存じのとおりです。

このように法科大学院を取り巻く状況が厳しいことから、不安を感じている人もいるかもしれません。しかし、みなさんは、法曹になることを目指して、一歩を踏み出したのですから、やるべきことを、全力でやるしかありません。

それは私たち教員も同様です。法曹になりたいと強く願う気持ちを抱いて、法科大学院に進学してきた人に対して有益な講義を行うことは、法科大学院で教鞭をとるものの責務です。東北大学の法科大学院は、法学研究科の一専攻ですが、専門職大学院としてその独立性が確保されており、カリキュラムの構成などについて、法科大学院独自の運営委員会で決定することとなっています。みなさんに最適な学習環境を整え、最適な教育を行うことができるよう、法科大学院の教員一同全力を尽くしていきます。

みなさんが抱かれている法曹になりたいという思いを、今日から、司法試験・司法修習を経て、職に就くまで、そして就いた後も、そのまま持ち続けてほしいと思います。みなさんが実り多い法科大学院生活を送られ、目標を達成されることを心より願っています。

令和2年4月

東北大学大学院法学研究科長

成瀬 幸典